

科目コード 312346a 配当学年 2・3・4

科目名 ソーシャルメディア論

教員名 小松 久美子

【授業の目的】

情報伝達や情報共有に欠かせないソーシャルメディアについて、実社会での情報収集、情報発信のための知識・技術を身につけ、適切な情報発信ができるようになる。

【到達目標】

- ①さまざまなソーシャルメディアの特徴を説明できる。
- ②ソーシャルメディアを用途に応じて戦略的に使い分け、適切な情報発信ができる。
- ③
- ④
- ⑤

【授業概要】

ソーシャルメディアの種類と定義、歴史から始め、現状のいろいろなソーシャルメディアの事例研究をする。
インターネット、スマートフォンやタブレットの普及でソーシャルメディアが発展してきた経緯について再確認し、実際にソーシャルメディアを活用・運用し、メディアとしてのソーシャルメディアの活用方法や戦略を考えた実践も目指す。
実際にソーシャルメディアで情報発信したり、ソーシャルメディアの実例をみんなで集めて、議論する。その上で、新しいソーシャルメディアの使い方を考える。

【授業の進め方・授業手法】

思考力・判断力を養うために、個別ワークを主とした学修活動を行う。また、「情報収集・分析力」及び情報リテラシーを高めるために、スマートフォン、タブレット、PC等の情報端末を用いて各種ソーシャルメディアサービスを実際に関連・利用する。
個別ワークでは、あるテーマについて自分の考えをまとめてWebClassのワークシートに記入する。WebClassの相互評価(ピアレビュー)で意見交換する。
また、各回の講義アンケートに各自が振り返りとして新たに知ったこと・感想・質問等を記述する。次回の講義で、その内容を元に質疑応答を行うので、反復しながら理解を深めることができる。

【準備学習】

- ・授業中に出された小課題について、主体的に取り組み、決め日までに提出すること。
- ・事前に講義で取り上げるソーシャルメディアのアプリを必要に応じてインストールし、実際に閲覧・使用してみる。(各回1時間)
- ・各回の講義アンケートに学修の振り返りとして新たに知ったこと・感想・質問などを具体的な記述で残していき、最終課題のレポートに反映できるようにする。(各回0.5時間)
- ・最終課題のレポートに向けて、ソーシャルメディアの利用方法・専門用語等を復習し、ノートにまとめておくこと。

【授業計画】

<授業形態>

この授業は、全回、オンデマンド形態で実施する。

<授業計画>

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ソーシャルメディアの分類
- 第3回 ソーシャルメディアの歴史
- 第4回 いろいろなSNSの仕組み、長所、短所
- 第5回 LINEの実利用
- 第6回 Twitterの実利用
- 第7回 Instagramの実利用
- 第8回 Facebookの実利用
- 第9回 動画配信の基本と使用機材
- 第10回 YouTubeによる動画配信 基本編
- 第11回 YouTubeによる動画配信 応用編・ライブ
- 第12回 ソーシャルメディアのビジネス活用
- 第13回 複数のソーシャルメディア連携
- 第14回 まとめ、レポート

授業計画は、状況・進度等に応じて変更になることがある。

【フィードバックの方法】

各回の講義アンケートに記された内容や質問に、次回の講義でコメントする。

【テキスト】

使用せず。
(テキスト ISBN)

【参考文献】

藤代裕之 著『発信力の鍛え方 ソーシャルメディア活用術』(PHP研究所, 2011)
藤代裕之 著『ソーシャルメディア論・改訂版 つながり再設計する』(青弓社, 2019)
斎藤徹 著『入門から業界動向までひと目でわかる ソーシャルメディア』(アスキー・メディアワークス, 2010)
総務省 著『令和元年版情報通信白書 ICT白書—進化するデジタル経済とその先にあるSociety 5.0』(日経印刷株式会社, 2019, Kindle版)
総務省 著『令和2年版情報通信白書 ICT白書—5Gが促すデジタル変革と新たな日常の構築』(日経印刷株式会社, 2020, Kindle版)

【オフィスアワー】

研究室前に掲示のオフィスアワーを確認すること。
質問・相談等は、WebClassで受け付ける。

【担当教員からのメッセージ】

ソーシャルメディアシステムを実際に活用・運用し、新しいソーシャルメディアの使い方をみんなで考える参加型の講義でソーシャルメディアを使って情報発信する側になろう。

【履修上の注意】

- ・原則として「ソーシャルメディア概論」を履修済みであることが望ましい。
- ・この講義に続く「ソーシャルメディア特論」でソーシャルメディアの利用・運用を実践するための知識を習得することも目標となる。
- ・講義中に、スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末を使用するので準備すること。PCを使用してもよい。
- ・講義アンケートや課題の提出をもって出席とする。

【実務経験のある教員による授業内容】

授業担当者はデジタルコンテンツ、ウェブサイト、ソーシャルメディア・イベント等の企画プロデュース・制作・運用と企業・団体・官公庁への導入の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、ソーシャルメディア活用方法に関する実践的教育を行う。

【ディプロマ・ポリシーとの関係】

- 《関心・意欲・態度》
- 8. ソーシャルメディアなど情報社会の問題に関して関心を持っていること。
- 《技能(表現)》
- 3. 情報機器などに対する操作スキルを有し、諸問題にICTを活用できる力を持っていること。(情報リテラシー)
- 《知識・理解》
- 7. 情報やメディアの特徴を理解し、表現法に対する知識を有していること。

評価方法

平常点(講義アンケート・小課題)
個別ワークと相互評価への取り組み
レポート

評価割合(%) 到達目標との対応

30	①②
40	①②
30	①②